

ネギのべと病と微小害虫の防除を徹底しましょう！

ネギのべと病（写真1、2）は、低温多雨の環境が続くと発生が多くなりますので今後注意が必要です。また、ネギの害虫ではネギアザミウマ（写真3）やネギハモグリバエ（写真4、5）の発生が平年並～やや多い発生となっています。いずれも**多発生すると防除を実施しても効果が劣ります**ので、発生初期～少発生のうちに防除を徹底してください。



べと病：初期症状



べと病：多発ほ場



ネギアザミウマによる被害と成虫（右上）



従来のネギハモグリバエによる被害と成虫（右上）



ネギハモグリバエ別系統による被害

<防除のポイント>

（写真 茨城県病害虫防除所）

1. **ネギは、薬液の付着しにくい作物**ですので、薬液が付着しやすいよう、**展着剤を加用**してください。
2. べと病の伝染源となる**発病株や被害残渣は、圃場外に持ち出して適切に処分**してください。
3. アザミウマ類など微小害虫は増殖速度が速いため、**発生初期に短期間（一週間程度）で2～3回集中して農薬散布を行う**と効果的です。また、微小害虫は下葉や葉鞘のすき間など薬液のかかり難いところに生息するため、十分な量の薬液で株全体に散布することが重要です。

表1 べと病の主な防除薬剤

（令和7年6月17日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期／使用回数	分類
ジマンダイセン水和剤	600倍	収穫14日前まで／3回以内	M03
ペンコゼブ水和剤			
ダコニール1000	1,000倍	収穫14日前まで／3回以内	M05
フォリオゴールド	800～1,000倍	収穫14日前まで／3回以内	4とM05
オロンディスウルトラSC	2,000倍	収穫7日前まで／2回以内	40と49
アミスター20フロアブル	2,000倍	収穫3日前まで／4回以内	11
アリエッティ水和剤	800倍	収穫3日前まで／3回以内	P07
ランマンフロアブル	2,000倍	収穫3日前まで／4回以内	21



表2 ネギアザミウマ、ネギハモグリバエの主な防除薬剤

（令和7年6月17日現在）

薬剤名	ネギアザミウマ	ネギハモグリバエ	使用量または希釈倍数	使用時期／使用回数	分類
ベリマークSC	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	2,000倍 (0.5ℓ/m ² 株元灌注)	収穫7日前まで／1回	28
ベストガード粒剤	○	○	6kg/10a (株元処理)	収穫前日まで／3回以内	4A
ディアナSC	○アザミウマ類	○	2,500～5,000倍	収穫前日まで／2回以内	5
ベネビアOD	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	2,000倍	収穫前日まで／3回以内	28
アグリメック	○アザミウマ類	○	500～1,000倍	収穫3日前まで／3回以内	6
アクタラ顆粒水溶剤	○	○	1,000～2,000倍	収穫3日前まで／3回以内	4A
ファインセーブフロアブル	○アザミウマ類	○	1,000～2,000倍	収穫3日前まで／2回以内	34
		○	2,000倍		
プレバソンフロアブル5		○ハモグリバエ類	2,000倍	収穫3日前まで／3回以内	28
ハチハチ乳剤	○アザミウマ類	○	1,000倍	収穫7日前まで／2回以内	21A
グレーシア乳剤	○アザミウマ類	○ハモグリバエ類	2,000～3,000倍	収穫7日前まで／2回以内	30
リーフガード顆粒水和剤	○	○	1,500倍	収穫7日前まで／2回以内	14
マッチ乳剤	○	○	2,000倍	収穫7日前まで／3回以内	15
スミチオン乳剤	○アザミウマ類		700～1,000倍	収穫14日前まで／2回以内	1B
ダイアジノン乳剤40	○アザミウマ類		700～1,200倍	収穫21日前まで／2回以内	1B
		○	1,000～2,000倍		

注) 1. 薬剤の中には、上記処理以外の登録もあります。各薬剤の成分別総使用回数を超えないよう十分に注意してください。
2. 分類欄には、FRAC、IRACコードを記載しました。同一分類（コード）は作用点が同じなので、連用は避けてください。

■ 農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用してください。

■ 営農 News は JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。